

令和7年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【与野本町小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	次年度への課題として、基礎的な知識・技能の定着を図りつつ、それらを自ら活用しようとする学習姿勢を育てる必要がある。特に正答率が低かった「データの活用」や「社会科の基礎理解」の定着不足、理科の学年差による定着のばらつきには、児童が自分の学習状況を振り返り、理解の十分な点を把握し改善する過程を組み込むことが重要である。これらの課題克服には、単元の要点整理や振り返りを学習過程に位置付け、学習内容を自分の言葉でまとめる活動を継続的に取り入れることが重要である。来年度の研究テーマである「自己調整力の向上」と関連させ、学習の見直しをもたせたり、理解できた点・つまづいた点を可視化したりすることで、基礎的な技能の定着を自ら確認しながら学ぶ姿を育むことを目指す。	
思考・判断・表現	観点別の結果から、次年度への課題として、教科や学年ごとに大きな差がみられた「思考・判断・表現」の力を育成するために、児童自身が意図的に高めていけるような学習過程の工夫が求められる。特に国語の「書くこと」や算数における説明・判断、社会の資料活用、理科の観察・実験の言語化など、根拠に基づき筋道を立てて考え、表現する力には共通した課題が見られた。次年度は、研究テーマ「自己調整力の向上」を踏まえながら、思考の途中経過を振り返らせたり、なぜそう考えたのか・他の可能性はないかということを考えさせたりすることで、学習者自身が改善する力を育てていく。これにより、根拠に基づいて考えをまとめ、表現する力の一層の向上を目指す。	

今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> さいたま市学習状況調査において国語の「書くこと」や算数の「数と計算」などの基礎的な内容について、やや課題が見られた。</p> <p><指導上の課題> 令和4年度までの算数科における読解力向上の研修成果を令和5年度からの国語科における読解力向上の研修成果を共同で共有しながら、国語力をより高める指導や基礎的な算数・数学的思考を身に付けさせる指導につなげていく必要がある。</p>	<p>⇒ 研修成果である「本町小算数科スタンダード」「本町小国語科スタンダード」を活用し、全校共通理解のもと学習指導を進めていく【毎月実施】 指導を増やす取組として、デジタルツール(Teams)の課題設定機能を活用したNIE活動や「コトバ(唐)」を活用する。【月2回程度の実施】 ICTの活用等によって児童一人ひとりの学習履歴を把握し、適切な指導ができるよう、授業改善を進めていく。【毎月実施】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> さいたま市学習状況調査において国語の「書くこと」の内容について、やや課題が見られた。</p> <p><指導上の課題> 本校の研究課題である国語力の向上に推進することで、「書くこと」の育成を図る指導を行うべく必要がある。カリキュラムマネジメントを行い、教科横断的に書くこととより質の高い学習につなげたり、児童が主体的に取り組める手立てを講じたりしながら、さらさら授業改善を進めていく必要がある。</p>	<p>⇒ 授業改善のために各学年のカリキュラムマネジメント実施状況の確認を行う。【月1回の実施】 読解力の向上を目指した取組としてTeamsの課題設定機能を活用しながらNIEの取組を行う。【月2回程度の実施】 初見の文章の読解力向上を図るため、「読解ワーク」を使った取組を行う。【月2回程度の実施】 文学的な文章や説明的な文章を教材とした授業実践の共有を行う。【年2回(7月、12月)実施】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	<p>1. 「本町小国語スタンダード」においては、文章の構成や段落の関係を視覚的に把握しやすくするために、教科書の本文をプリンター一枚に収まるように作成した「全文シート」や、単元のねらいに合わせて教科書教材と関連させながら本文や文章を読み「並行読書」などを位置付け、全学年で取り組むことができた。</p> <p>2. 朝学習「チャレンジタイム」の時間には、デジタルツールを活用した読書を増やす活動を行うことができた。</p> <p>3. ICTの活用等による児童一人ひとりの学習履歴を把握した授業改善については、学年や教科によって差が見られた。</p>
思考・判断・表現	A	<p>朝学習「チャレンジタイム」の時間には、NIEの取組だけでなく、自由に作文を書く「うそ日記」で、身に付けた語彙を活用しながら書く力を身に付けさせたり、すくろく(ことばクエスト)で反道と関わり合いながら話すこと・聞くことの経験を積ませたりして、互いの考えを伝え合う力や相手の話を受け止める姿勢を育むことができた。</p> <p>カリマネデザインマップの内容確認については、毎月実施することができた。</p> <p>11月に第3学年において読解力向上をねらいとした授業研究会を実施し、成果や課題について全教員で共有することができた。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語・算数・理科のすべての教科について、すべての項目で全国の平均正答率より上回る結果となった。特に国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」については正答率が8割以上となり、昨年度の本校の結果と比較しても高い結果となった。一方で「情報の扱いに関する事項」については正答率が7割を下回り、昨年度の本校の結果と比較しても、やや低い結果となった。昨年度のさいたま市学習状況調査では「情報の扱いに関する事項」の取り扱いがないため、学校全体の傾向として捉えることはできないが、第6学年の傾向として図や情報と語句の関連付けなどにやや課題があると考えられる。</p>	
思考・判断・表現	<p>算数・理科については、全国の平均正答率と比較してすべての項目で上回る結果となった。国語も「書くこと」「読むこと」の項目では全国の平均正答率を上回ったが、「話すこと・聞くこと」の項目のみ全国の平均正答率を下回る結果となった。正答率としても7割を下回り、昨年度の本校の結果と比較してやや低い結果となった。調査結果から、目的や意図に応じて伝え合う内容を検討することや、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることなどに課題があると考えられるが、昨年度のさいたま市学習状況調査では「話すこと・聞くこと」よりも「書くこと」に課題が見られるため、学校全体の傾向というよりも学年としての傾向と捉えられる。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>「知識・技能」については、国語ではどの学年も平均正答率が高く、言語の特徴や使い方に関する事項について基礎的な内容の定着がみられる。算数では「数と計算」や「図形」の基礎的な内容で比較的高い正答率がみられ、学習内容が身に付いていることがわかる。一方で「データの活用」に関しては、全体的に正答率が高くなり、データの読み取りから自分の考えを整理・関連付けることやや課題がみられる。社会ではどの学年も正答率がやや低く、基礎的な内容の理解を深める必要がある。理科は上の学年の方が平均正答率が高い結果となり、学年に応じた知識の積み上げがみられるといえる一方、基礎的な内容の定着にばらつきがみられ、学習内容を定着させる機会の確保が求められる。全体的に知識・技能については定着が図れているといえる結果であった。さらに既習事項や各教科と関連付けるなどの教科横断的な取組を推進していくことが重要である。</p>	
思考・判断・表現	<p>「思考・判断・表現」では、教科や学年によるばらつきが大きい結果となった。国語では高学年に進むにつれ「話すこと・聞くこと」の内容で平均正答率が高かった。一方、「書くこと」では平均正答率がやや低く、文章構成スキルの体系的な育成が引き続き必要となる。算数では、平均正答率が高い結果となり、学年に応じた知識の積み上げがみられるといえる一方、基礎的な内容の定着にばらつきがみられ、学習内容を定着させる機会の確保が求められる。資料の読み取りや根拠に基づく説明・比較・関連付けができるような機会の確保が求められる。理科では平均正答率がやや低く、筋道を立てて説明する力や資料を根拠として判断して課題が残る。社会ではどの学年も正答率がやや低かった。資料の読み取りや根拠に基づく説明・比較・関連付けができるような機会の確保が求められる。理科では平均正答率が高い結果となり、学年に応じた知識の積み上げがみられるといえる一方、基礎的な内容の定着にばらつきがみられ、学習内容を定着させる機会の確保が求められる。全体的に知識・技能については定着が図れているといえる結果であった。さらに既習事項や各教科と関連付けるなどの教科横断的な取組を推進していくことが重要である。</p>	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	<p>「本町小算数科スタンダード」については、全校的に浸透しつつあり、日々の授業において共通理解のもと学習指導を進めることができていくが、「本町小国語科スタンダード」の内容については現在も研究中のため、活用できる範囲での実施となった。</p> <p>朝学習「チャレンジタイム」の時間には、デジタルツールを活用した読書を増やす活動を行うことができた。</p> <p>ICTの活用等による児童一人ひとりの学習履歴を把握した授業改善については、学年や教科によって差が見られた。学年や教科、児童の実態に合わせながら積極的に実施していく必要がある。</p>	変更なし
思考・判断・表現	A	<p>毎月の授業時数を報告する際に、各学年のカリキュラムマネジメント実施状況の確認を行った。また、小・中合同研修会において近隣4校の小・中学校でカリマネデザインマップの修正を行った。</p> <p>朝学習「チャレンジタイム」の時間には、Teamsの課題設定機能を活用しながら読解力向上を目指したNIEの取組を行うことができた。また、読解力向上をねらいとしたワークシートを使って初見の文章の読解力向上を図る取組を行うことができた。</p> <p>7月に第4学年において読解力向上をねらいとした授業研究会を実施し、成果や課題について全校で共有することができた。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)